

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-125704

(P2000-125704A)

(43) 公開日 平成12年5月9日 (2000. 5. 9)

(51) Int.Cl⁷

A 01 K 85/00

識別記号

3 0 1

F I

A 01 K 85/00

テーク・コード (参考)

3 0 1 A

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-342258
(62) 分割の表示 特願平10-181073の分割
(22) 出願日 平成10年6月26日 (1998. 6. 26)

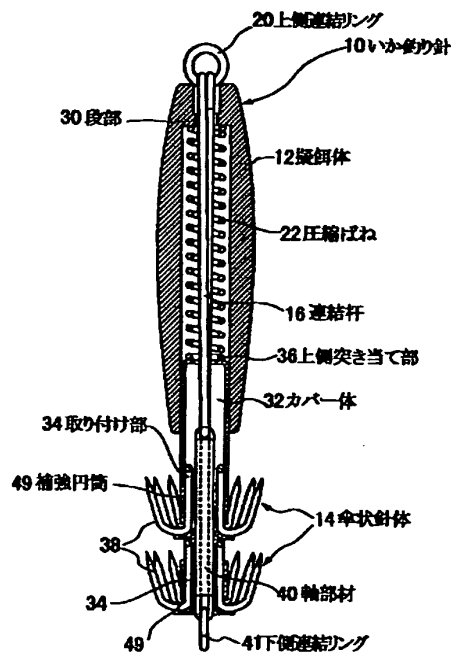
(71) 出願人 594063153
台和漁具株式会社
東京都台東区上野5丁目6番10号
(72) 発明者 与川 秀男
東京都台東区上野5丁目6番10号 台和漁
具株式会社内
(74) 代理人 100059959
弁理士 中村 稔 (外6名)

(54) 【発明の名称】 いか釣針

(57) 【要約】

【課題】 擬餌体102と傘状針体104が互いに一直線状の状態からずれるおそれが少なく、しかし異常に大きな力が加わった場合には互いに曲がった状態になる可撓性も有する、釣り糸の絡み付きのおそれが低く、耐久力の大きいいか釣針を提供すること

【解決手段】 擬餌体の内部に連結杆を配置し、連結杆の下方に傘状針体を折り曲がり可能に連結し、上記連結杆の周囲で上記擬餌体の上部部と上記傘状針体との間に、圧縮ばね及び金属製カバー体を撓動自在に配置し、かつ上記傘状針体の上部部を上記金属製カバー体に嵌合させ、上記圧縮ばねの付勢力によって上記擬餌体、上記カバー体及び上記傘状針体を共通軸線上に配置することを特徴とするいか釣針。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 擬倒体の内部に連結杆を配置し、連結杆の下方に傘状針体を折り曲がり可能に連結し、上記連結杆の周囲で上記擬倒体の上部と上記傘状針体との間に、圧縮ばね及び金属製カバー体を撓動自在に配置し、かつ上記傘状針体の上部を上記金属製カバー体に嵌合させ、上記圧縮ばねの付勢力によって上記擬倒体、上記カバー体及び上記傘状針体を共通軸線上に配置することを特徴とするいか釣針。

【請求項2】 上記カバー体が、その下端部に軸線と直交し開口付きの端面を有し、上記傘状針体の上部が、上記開口に嵌合する軸部材と、該軸部材の周囲で一段下がった段部を有し、該段部に上記カバー体が当接することを特徴とする請求項1に記載のいか釣針。

【請求項3】 上記カバー体が、傘状針体の取り付け部の外径が嵌合できる内径を有するカバー円筒であり、上記傘状針体の取り付け部の外周に上記カバー体とほぼ同一直径の補強円筒を固着し、該補強円筒が上記傘状針体の取り付け部より低い部分まで延びていることを特徴とする請求項1に記載のいか釣針。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、いか釣針、さらに詳しくは、耐久性が高く、釣り糸が絡むおそれが少なく、長期間使用することができるいか釣針に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のいか釣針100は、図5に示すように、合成樹脂製の擬倒体102の下方に2つのステンレス製の傘状針体104を取り付けてなる。擬倒体102の内部には、連結杆106が貫通し、連結杆106の上部は擬倒体102の上方外部に配置された連結リング110に取り外し可能に係合されており、連結杆106の下方外部には傘状針体104の針連結部材105が撓動可能に取り付けられている。軸部材105は、2個のU字形部品を互いに反対向きにしてその開いた部分を結合した無端形状であって、上方端部に連結杆106の下方端部が係合され、下方端部には連結リング114が係合されている。擬倒体102の内部で連結杆106の周囲には、圧縮ばね112が配置されている。

【0003】 圧縮ばね112の上部は擬倒体102の上部内部に設けられた段部120に当接し、圧縮ばね112の下部は連結杆106の周囲に撓動自在に配置された合成樹脂製のカバー体122に当接している。カバー体122は、傘状針体104によって連結杆106から抜け出ることが抑制され、連結杆106と擬倒体102の間であって連結杆106と擬倒体102の接触を防止する。圧縮ばね112の付勢力によって、擬倒体102と傘状針体104は一直線状になり、連結杆106がそれらの中心に位置するようになる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上述したいか釣針100においては、擬倒体102、カバー体及び122、及び軸部材105は圧縮ばね112によって一体的に結合されているが、カバー体122と針連結部105との間に隙間があり、擬倒体102と傘状針体104が互いに一直線状の状態からずれることにより、それらの間に隙間が生じるおそれが高い。このような隙間には、釣り糸が挟まれて釣り糸がいか釣針100にからむ問題がある。擬倒体102と傘状針体104が互いに一直線状の状態からずれた場合には、擬倒体102と傘状針体104が擬倒体102の下部付近で曲がるようになる。その結果、釣り糸を巻き上げるとき、傘状針体104の先端部が巻き上げローラに接触するようになり、傘状針体104の針先が早く摩耗損傷してしまうという問題もあった。

【0005】

【発明の目的】 本発明は、上述した従来技術のいか釣針の問題に鑑みなされたものであって、擬倒体102と傘状針体104が互いに一直線状の状態からずれるおそれが少なく、しかし異常に大きな力に加わった場合には互いに曲がった状態になる可撓性も有する、釣り糸の絡み付きのおそれが低く、耐久力の大きいいか釣針を提供することを目的とする。本発明、傘状針体の先端部が巻き上げローラに接触する可能性が少なく、従って、長期間にわたっていか釣針としての優れた機能を維持し続けることができるいか釣針を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、擬倒体の内部に連結杆を配置し、連結杆の下方に傘状針体を折り曲がり可能に連結し、上記連結杆の周囲で上記擬倒体の上部と上記傘状針体との間に、圧縮ばね及び金属製カバー体を撓動自在に配置し、かつ上記傘状針体の上部を上記金属製カバー体に嵌合させ、上記圧縮ばねの付勢力によって上記擬倒体、上記カバー体及び上記傘状針体を共通軸線上に配置することを特徴とするいか釣針ある。本発明の他の実施態様は、以下の通りである。上記カバー体が、その下端部に軸線と直交し開口付きの端面を有し、上記傘状針体の上部が、上記開口に嵌合する軸部材と、該軸部材の周囲で一段下がった段部を有し、該段部に上記カバー体が当接することを特徴とする。上記カバー体が、傘状針体の取り付け部の外径が嵌合できる内径を有するカバー円筒であり、上記傘状針体の取り付け部の外周に上記カバー体とほぼ同一直径の補強円筒を固着し、該補強円筒が上記傘状針体の取り付け部より低い部分まで延びていることを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】 以下に、本発明の好ましい実施態様を図に基づいて説明する。第1実施態様のいか釣針100は、図1に示すように、合成樹脂製の擬倒体12の下方に2つのステンレス製の傘状針体14を取り付けた

る。擬餌体12の内部には、連結杆16が貫通し、連結杆16の上端部は擬餌体12の上方外部に配置された上側連結リング20に取り外し可能に係合されており、連結杆16の下方外部には傘状針体14が振動可能に取り付けられている。擬餌体12の内部で連結杆16の周囲には、圧縮ばね22が配置されている。

【0008】圧縮ばね22の上端部は擬餌体12の上端内部に設けられた段部30に当接し、圧縮ばね22の下端部は連結杆16の周囲に摺動自在に配置された金属製、例えばステンレス製のカバー体32に当接している。カバー体32は、傘状針体14によって連結杆16から抜け出ることが抑制され、連結杆16と擬餌体12の間にあって連結杆16と擬餌体12の接触を防止する。カバー体32は、図2に示すように、傘状針体14の取り付け部34の外径に隙間なく嵌る直径を有するパイプ部材からなり、その上端には内側に折り曲げた上側突き当て部36が形成されている。各傘状針体14は、レ形の針部材38を取り付け部34において傘状に配置して固定してなり、取り付け部34の内部を軸部材40が貫通し、軸部材40の上端は取り付け部34より突出し、下端には下側連結リング41が取り付けられている。各針部材38の取り付け部34の周囲は、カバー体32と同一直径を有するパイプ部材からなる補強円筒49によって補強されている。

【0009】上述した構成のいか釣針10は、組立てられると、補強円筒49がカバー体32に突き当たり、取り付け部34がカバー体32に隙間なく嵌合する。圧縮ばね22は、上端が擬餌体12の内部の段部30に当接し、下端はカバー体32の上側突き当て部36に当接する。上述した組立て状態で圧縮ばね22の付勢力によって、擬餌体12、カバー体32、傘状針体14が一直線に並び、これに曲げ力が加えられるとカバー体32と上方の傘状針体14の間が折り曲がることになる。

【0010】第2実施態様のいか釣針50は、図3及び図4に示されるが、第1実施態様と同一の構成については、同一の符号を付してその説明を省略する。第2実施態様のいか釣針50は、第1実施態様に対しカバー体52の構成が異なる。すなわち、カバー体52は、図4に示すように、上端に上側突き当て部54が形成され、下端にも下側突き当て部56が形成されている。下側突き当て部56の内径は、補強円筒49の内径に等しく、すなわち取り付け部34が隙間無く嵌合する大きさである。上述した第2実施態様のいか釣針50は、組立てら

れると、カバー体52の下側突き当て部56に取り付け部34が嵌合し、またカバー体52の下側突き当て部56に補強円筒49が当接する。

【0011】

【発明の効果】本発明によるいか釣針は、擬餌体と傘状針体が互いに一直線状の状態からずれるおそれが少なく、しかし異常に大きな力が加わった場合には互いに曲がった状態になる可撓性も有する、釣り糸の絡み付きのおそれが低く、耐久力の大きい効果を有する。本発明によるいか釣針はまた、傘状針体の先端部が巻き上げローラに接触する可能性が少なく、従って、長期間にわたっていか釣針としての優れた機能を維持し続けることができる効果を有する。か釣針を提供することができる。本発明によるいか釣針はさらに、傘状針体の先端部が巻き上げローラに接触する可能性が少なく、従って、長期間にわたっていか釣針としての機能を維持し続けることができる効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施態様のいか釣針の断面図である。

【図2】本発明の第1実施態様のカバー体の斜視図である。

【図3】本発明の第2実施態様のいか釣針の断面図である。

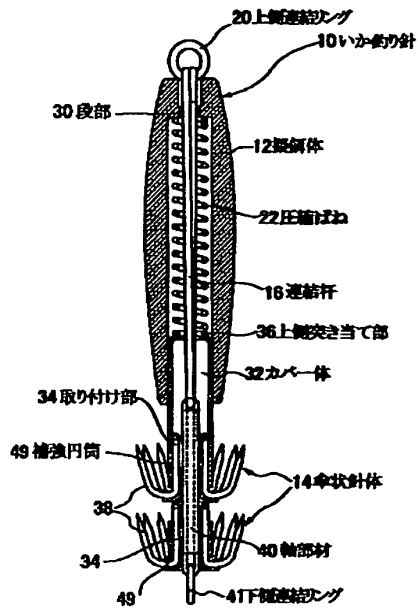
【図4】本発明の第2実施態様のカバー体の斜視図である。

【図5】従来のいか釣針の断面図である。

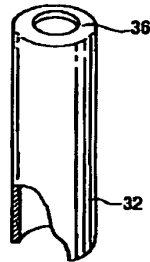
【符号の説明】

10、50	いか釣針
12	擬餌体
14	傘状針体
16	連結杆
20	上側連結リング
22	圧縮ばね
30	段部
32	カバー体
34	取り付け部
36	上側突き当て部
37	下側突き当て部
38	傘状部材
40	軸部材
41	下側連結リング
49	補強円筒

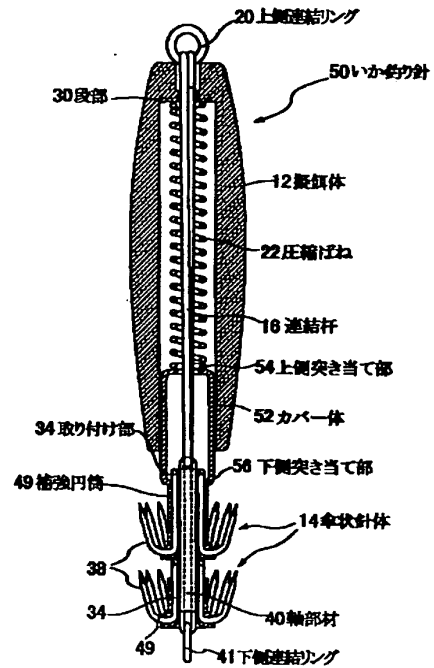
【図1】



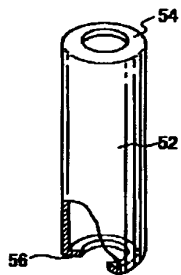
【図2】



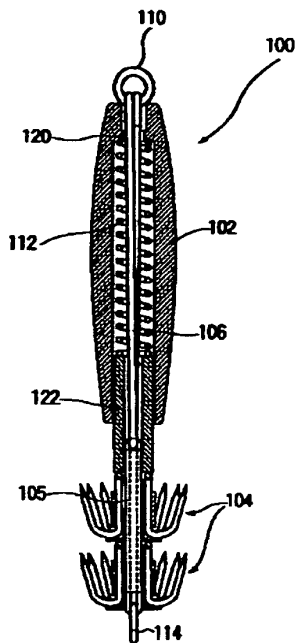
【図3】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP02000125704A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000125704 A

TITLE: SQUID JIGGER HOOK

PUBN-DATE: May 9, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YOKAWA, HIDEO

COUNTRY

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

DAIWA GYOGU KK

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP11342258

APPL-DATE: June 26, 1998

INT-CL (IPC): A01K085/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a squid jigger hook having slight possibility of deviation from a liner state of a lure body and umbrella-type hook bodies with each other whereas also having a flexibility becoming a curved state with each other in a case extraordinarily large force is applied with a low possibility of entanglement of a fishing line and having high durability.

SOLUTION: This squid jigger hook is composed of a connecting bar 16 inside a lure body 12, foldably connected umbrella-type hook bodies 14 under the connecting bay 16, a compressing spring 22 and a metal covering body 32 around the connecting bar 16 and between an upper end part of the lure body 12 and the umbrella-type hook bodies 14 in a freely sliding state, engaging the upper end

part of the umbrella-type hook bodies 14 with the metal covering body 32 and
arranging the lure body 12, the covering body 32 and the umbrella-type hook
bodies 14 on the common axial line.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO